

文化講演会のお知らせ



講師：飯塚正人氏

演題：知られざる「イスラム原理主義」——人びとの支持を集める理由

日時：2010年7月31日(土) 14:00~16:00

会場：東京外国語大学本郷サテライト4F

講師紹介：1960年神奈川県生まれ。東京外国語大学教授（アジア・アフリカ言語文化研究所副所長、フィールドサイエンス研究企画センター長）。イスラーム学、特に近現代における

イスラーム政治思想と政治運動を中心とする中東政治が専門。著書に『現代イスラーム思想の源流』（山川出版社世界史リブレット69）、共編著に『イスラーム世界がよくわかるQ&A 100 人々の暮らし・経済・社会』（亜紀書房）、監著に『よくわかるイスラム原理主義のしくみ』（中経出版）、監修書にエリアス・サンバー著『パレスチナ』（創元社）、共著書に『「対テロ戦争」とイスラム世界』（岩波新書）、『イスラームに何がおきているか』（平凡社）、『「イスラム原理主義」とは何か』（岩波書店）、『講座イスラーム世界5 イスラーム国家の理念と現実』（栄光教育文化研究所）、『イスラームを学ぶ人のために』（世界思想社）、『エジプト』（新潮社）、『中東諸国における政治経済変動の諸相』（アジア経済研究所）、『シリーズ世界史への問い10 国家と革命』（岩波書店）など多数。

概要：「イスラム原理主義」は、1979年のイラン・イスラーム革命以来、30年にわたってイスラーム報道の中心であり続けている。特に2001年の米国同時多発テロ事件以降は、反米テロの動機をすべて「イスラム原理主義」で説明できるかのような単純極まりない報道が横行した。もちろん「イスラム原理主義」と反米テロが100%無関係というわけではない。けれども、9・11同時多発テロを「イスラム原理主義者の犯行か？」と報じた当のメディアが、そう報じた後で初めて「イスラム原理主義」とは何か、慌てて調べ始めたのも事実である。だから、この種の報道はかなりの部分が信憑性に欠ける。

1970年代の半ばから高揚し、時には暴力沙汰を起こしながら、今日なお、人びとの変わらぬ支持を集める「イスラム原理主義」。その思想と活動、支持される理由を追いかけていくと、現代のイスラーム教徒が直面している独裁政治や経済的な苦境、また反米テロの背後にある国際的無理解など、彼らを取り巻く深刻な問題が見えてくる。

申込み・問合せ先：東京外語会事務局 Tel:03-3815-5877 Fax:03-5842-8377 E-Mail: <jimukyoku@gaijokai.or.jp>

講演の後、講師を囲んでサテライト8Fにて懇親会が開かれます。

会費は1000円（会費は講演の聴講費、資料作成費、講演会後の懇親会費にあてられます）